



発行所 独立行政法人国立病院機構 西別府病院
住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
TEL 0977-24-1221(代表)
FAX 0977-26-1163(代表) 0977-76-7231(連携室)
ホームページアドレス [http\(s\)://nishibeppu.hosp.go.jp](http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp)

謹賀新年



西別府病院からの初日の出
(撮影者：管理課長 菊池 仁)

目 次

新年のご挨拶	2	年末年始の行事食紹介	9
HAL がきた!	4	第46回九州地区重症心身障害研究会を開催して	10
多職種でタイムリーな支援! ALS ケアチーム!	5	X線骨密度測定装置の更新	12
ひだまりだより	5	グッドプレゼンテーション	12
ボウリング大会	6	私の趣味	13
第1回 地域コネクトセミナー (NC セミナー)	7	ボランティア募集	14
体験型アミューズメント 'Feel'・クリスマス会	8		

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さんのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さんの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利
5. カルテ開示を受ける権利 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利

巳年は復活・再生の年です — 新年のご挨拶 —

院長
末延 聡 一



広報誌「にべっぷ」を閲覧頂きありがとうございます。院長の末延です。本誌面を借りまして新年のご挨拶を申し上げます。

今年は巳年（みどし・へびどし）ですね、最近はなかなかへびの抜け殻を見ることは無くなりましたが、末延は田舎（旧・香々地町、現在の豊後高田市）で何度か脱皮後のへびの抜け殻を見ました。知り合いが大事に財布にしまっていたのですが、脱皮する＝復活や再生、また金運が良くて縁起が良いことを後になって知りました。

つきましては、西別府病院も令和7年は「復活・再生」の年にしましょう。

私は令和6年4月に当院にて勤務を開始し、10月に院長に就任しましたが、その際に令和6年度下半期の三大プロジェクトとして

- (1) HALが来た
- (2) 看護師特定行為研修ははじめます
- (3) 病児保育で育児支援

を挙げました。(1)は本誌でも取り上げているように神経内科を中心にリハビリ科のスタッフをはじめ多職種の協力を得て1月より開始します。(2)は呼吸器(気道確保に係るもの)関連の看護師特定行為研修を西別府病院で働きながら受講できる予定で、認定看護師をはじめ、こちらも多くのメンバーが毎週議論し、開始にこぎ着けそうです。(3)は育児中のママ・パパスタッフがお子さんの急な発熱等で困った場合に利用できる念願の病児保育施設を4月に開始出来るよう、準備しています。

COVID-19の影響で令和2年からの3年間、医療界は今までに無い勤務体系を強いられ、西別府病院も多くの制限がかかった中で大変な日々を送っていたと聞き及んでおります。この大変な日々から復活し、そして病院の再生を目指して上記(1)～(3)のプロジェクトを応援し、患者さんに多方面から貢献したいと思います。職員の皆さんにはこれらの業務をモチベーションとして頂けると嬉しいです。

更に令和7年は、電子カルテの更新・病院理念の見直しなど、まさに復活・再生にふさわしいイベントがたくさん予定されています。病院職員全員で力を合わせて取り組んでいきましょう。

令和7年も西別府病院を何とぞ宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、本誌を閲覧くださった皆さまのご多幸とご発展を祈念します。

新年のご挨拶

事務部長
横尾 大 輔



新年あけましておめでとうございます。

本年が職員の皆様と当院にとって素晴らしい一年になるよう祈念いたします。

年明け早々ですが昨年を振り返ると、3月の東1病棟改修工事の完成、4月の結核モデル病床運用開始、

6月の診療報酬改定及び第4期Hospnet切り替え作業、7月の九州厚生局及び大分県による個別指導・適時調査、そして10月の院長交代などがございました。これらの業務を病院全体で取り組みましたが、事務部においては常勤職員の多くが1月又は4月に異動し新たな業務の担当となった体制で行いました。昨年の業務が職員皆様のご尽力・ご協力により滞りなく行われたことに、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今年は当院念願の1つである電子カルテの更新が行われます。昨年の私の年頭のあいさつでは昨年12月の稼働を目標に作業をしていることを書かせていただきましたが、その後仕様の検討に時間を要し、だいぶ遅れてしまいましたが今年9月の運用開始の予定で現在作業が行われております。なお、2月には導

入機器が決定する予定になっています。その後は新たに稼働する電子カルテを有効に使用するため院内各部署の皆様による導入作業を行う必要があります。どんなに素晴らしい電子カルテを購入しても約半年をかけて行う導入作業を怠れば使いづらい電子カルテになってしまいますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

今年巳年、干支は乙巳(きのとみ)です。「乙」は困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなや

かに伸びる草木を表しているそうです。また、「巳」については脱皮し強く成長する蛇の生命力から「再生と変化」や「不老長寿」を意味するとのこと。ここ数年当院の収支は厳しい状況にありますが、昨年就任された末延院長のもと、数々の困難に対しても当院が更に成長するよう職員の皆様と取り組んでいきたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

新年を迎えて

看護部長
竹之内須賀子



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、能登半島地震から始まる災害の多い年でした。COVID-19でも経験しましたが、今までのあたりまえの日常は容易に変化しますし、本当に未来の予測が困難なVUCA(ブーカ)の時代であると実感しています。こんな時代だからこそ人との繋がりとというか、人を大切に思いやる心は本当に大切だと考えています。

そのため、西別府病院では昨年、職員間で良好な対話も、関係性の構築ができるように多職種で新採用者研修を1週間行いました。本当によく語り笑顔の絶えない期間となりました。そして、9月にも多職種で、新採用者の院外研修を行いました。リフレッシュ目的でもありBBQや体を動かしての研修は、仲間のつながりを更に強固にできたようで、その後の看護師の新採用者研修では、グループワークも活発で自分の思いをよく伝えあっていました。さらに、数か月後には、職種の垣根を越えて新採用者同士で主体的に忘年会も開催したようです。人との繋がりができた研修企画であったと評価しています。不確実で不安を感じる時代ではありますが、共に考え向き合える仲間がいるのは素敵なことだと思います。管理者として、このような心理的安全性が高まる環境が現場でも実現で

きるように努めていかなければと考えています。更にレベルを上げていきたいと思ひます。

また、西別府病院は、昨年10月より末延院長が就任され、3つのキーワードの話がありました。3S「尊敬」「将来」「スピード」：そして「Ambitious:野心をもつこと」についてでした。特に3Sの「尊敬」についてはまさに人への向き合う姿勢にも通じ真摯に取り組むたいと考えています。そして、「Ambitious:野心をもつ」の話の聞いたときは、変化への期待とワクワクする思いが湧きました。野心とまでは言えませんが、私は今の時代に応じた魅力的な看護部でありたいと考えています。次年度からは特定行為研修(長期呼吸管理関連:気管カニューレ交換)を始めます。準備には本当に多くの皆さんの協力を得ることができ、感謝しかありません。次へのステップとして取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、2025年は巳年です。「巳」は「再生と変化」を意味し、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされてきました。蛇のように再生や変化を繰り返しながら、柔軟に発展していく年になると考えられています。前例に捕らわれず、柔軟な対応を心がけ、野望をもって臨みたいと思ひます。

新しい年が、皆様にとっても、成功と充実溢れるものとなりますよう心から願っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



HALがきた！

神経内科 部長 花岡 拓哉

長らく待ち望んだ、HALがきました！

HAL（ロボットスーツHAL医療用下肢タイプ）が2025年1月から当院に導入されました。HAL（= Hybrid Assistive Limb）は筑波大学で開発された装着型の動作支援ロボットであり、2016年4月から保険適応となり全国で使用されています。一方で、大分県内で同タイプを正式導入しているのは当院のみであり、県内の患者さんにとっても朗報です。

HAL、とくに医療用下肢タイプでは、歩行時に筋肉から生じる微弱な生体電位信号を読み取り、下肢の動きを補助します。HALを用いて歩行練習を繰り返すことで歩行機能改善が期待されており、現在は下記の10疾患で保険適応となっています。

HAL単独では転倒の危険があるため転倒防止装置を併用することが定められており、当院では体幹支持トレッドミル“Medicalcare Pit”を導入しました。これは左右独立の免荷制御機能を備えており、体幹のねじれを調整することができ、より高い安全性を確保することで安心してリハビリテーションを実施できます。

進行性の神経筋疾患、いわゆる神経難病においても近年の治療の開発・進歩はめざましいものがあります。薬剤での治療も重要ですがリハビリテーションは身体機能の維持・改善に不可欠であり、より有効性の高い治療としてHALに期待しています。已年を迎え、HALとともに脱皮、成長していきましょう！



導入のための安全講習会の様子

<対象疾患>

- 脊髄性筋萎縮症 (SMA)
- 球脊髄性筋萎縮症 (SBMA)
- 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
- シャルコー・マリー・トゥース病 (CMT)
- 遠位型ミオパチー
- 封入体筋炎 (IBM)
- 先天性ミオパチー
- 筋ジストロフィー
- HTLV1 関連脊髄症 (HAM)
- 遺伝性痙性対麻痺

多職種でタイムリーな支援！ ALSケアチーム！

神経内科 部長 花岡 拓哉

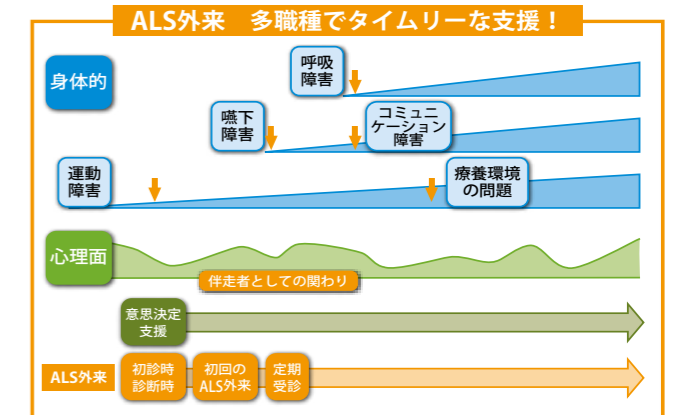
ALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者さん・ご家族を多職種で支援すること。当たり前のように、うまく実践できずにもどかしい思いをした経験はありませんか。患者さんの変化に気づき、そのタイミングで他の職種と検討して、患者さん・ご家族に対策を提案する。この一連の流れを円滑に行うため、私たちはALSケアチームを立ち上げました。

多職種で支援することでより多くの視点で患者さんに関わることができます。「ちょっとおかしいな」という小さな気づきでも、お互いの距離が近いチームアプローチであれば積極的に共有して相談しやすくなります。それだけのこと？と思われるかもしれませんが、ALSケアチームでは多職種専門外来のほうが通常の神経内科外来よりも経過が良いという研究結果もあります。

私たちは活動の柱として、1 ALS外来の開設、2 定期的な多職種カンファレンス開催、3 本人の人

生観に基づく意思決定支援ならびに正確な医療情報を共有することを目的とした「これからノート」の作成を行っています。

まだまだ発展途上の面もありますが、“多職種でタイムリーな支援！”を合言葉に、ALS診療を向上させ、患者さん・ご家族のQOL向上に貢献したいと思えます。



ひだまり だより



※写真の掲載につきましては利用者さんのご家族の了承を得ております。

別府市アール・ブリュットの芽ばえ展の出展

今回、多機能型事業所「ひだまり」は利用者さんとスタッフで作品を制作し、「別府市アール・ブリュットの芽ばえ展」に出展しました。「アール・ブリュット」とは、伝統や流行・教育などに左右されず、自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術のことです。そこで、絵具を使いフィンガーペイントで描いた青い空と、色鉛筆で描いた模様を鳥に仕上げた作品を制作しました。

制作中は、真剣な表情でペイントに取り組んでいました。また、色鉛筆で紙いっぱいに模様や絵を描く利用者さん、スタッフと一緒に模様を描くことを楽しんでいる利

用者さんなど、制作活動を楽しんで取り組んでいました。作品ができた時は嬉しそうな笑顔をし、私たちスタッフにとっても可愛い表情を見せてくれました。

できあがった作品は、「大空の中を鳥たちが手を取り合うように飛んでいく」、そんな様子に見えることから、作品名を【はばたき】にしました。

これからも、多機能型事業所「ひだまり」は、スタッフ全員で利用者さんの笑顔を大切に、様々な行事を一緒に行っていきたいです。ひきつづき、「安心で安全な一日を、楽しく過ごしていただける」ことを日々心がけて、日常生活支援や日中活動支援を行っていきます。



ボウリング大会



▶ ボウリング大会について

東 4 病棟 副看護師長 須賀美佳

令和6年11月15日に、コロナ禍以降初めて、職員一同が参加するボウリング大会を開催しました。参加人数は100名を超え、開催当日までの間、楽しい会にしたい一心で、委員会メンバーで企画・準備を行いました。

日頃、多忙な日々を送っていますが、大会当日は仕事から離れて、笑顔でボウリングを楽しむ様子が見られました。ストライクやスペアが出ると、大きな歓声が上がリ、チームで協力し合う姿が見られました。また、職員の子供達も多数参加し、一生懸命重い球を投げる様子に、心癒やされました。

このイベントは、単に楽しむだけでなく、日頃接する機会が少ない部署間の交流を深めることも目的としていました。職種しか知らなかった職員と顔を付き合わせて一緒に楽しむこと、職場では見られない父・母としての顔等を見ることで、職員間のコミュニケーションを促進し、院内のチームワークの強化に繋がったと感じました。大会終了後も、職員には笑顔が見られ、「次回も是非参加します!!」との声を多数いただきました。今後も、このような機会を通じて、職員が働きやすい環境作りに努めたいと思います。

▶ ボウリング大会に参加して

東 1 病棟 看護師 大隈景子

私は9月から前任者より引き継ぎ、人材確保プロジェクトメンバーになりました。そこでボウリング大会の開催を知り、数年ぶりの開催だけどみんな参加してくれるだろうか心配していました。しかし、想像を超える人数の参加がありとても嬉しかったです。

東1病棟では来れなくなったスタッフ含め、たくさんのスタッフが参加希望してくれ、係としてはとてもありがたい思いでいっぱいでした。

また、とても明るく楽しい先輩方が、みんなに声をかけてくれたり、お揃いのTシャツや師長さんの

顔写真シールを作成してくれたり、とても盛り上げてくれ、感謝感激でした！当日もみんなでそのお揃いTシャツを着て団結力ばっちり賞を頂くことができました！！

なかなかない機会だったので、様々な部署の方と交流できたことが新鮮でとても楽しかったです！！個人でも、院長賞を頂くことができ驚きと嬉しさでいっぱいでした！！

今後もみなさんが楽しめる様な企画などができるようメンバーとして頑張ります！



第1回 地域コネクトセミナー (NCセミナー)

地域医療連携室・医療社会事業専門員 安部仁美
牧内寛弥

当院の患者さんを在宅で支援して下さる関係者の方から「以前していた呼吸器の学習会とかまたしないんですか?」「神経の患者さんについて何か勉強会ありませんか?」などの問い合わせをいただきました。そこで、「患者さんの在宅支援をして下さる方々の声に応えたい」という思いと、「西別府病院のことを知ってもらいたい」、「患者さんを通してだけでなく地域の方々との顔の見える連携を行なっていきたい」という思いから、以前開催していた「病診連携セミナー」を「地域コネクトセミナー (NCセミナー)」へ名称を変更して再開しました。

第1回目となる今回の地域コネクトセミナーは、「呼吸器管理」の視点から座学とグループ講義の2部構成で実施しました。第1部は、花岡神経内科部長から「神経難病患者の呼吸器ケア」と題して講義形式にて、第2部は、リハビリテーション、看護師、臨床工学技士の3つのブースに分けて、グループ講義形式で実施しました。それぞれ、伊藤運動療法主任、呼吸器疾患看護認定看護師の小野看護師、和田臨床工学技士が担当

し、講義と実技指導を行ないました。グループ講義では、講義だけでなく各々の専門職から直接具体的な話を聞き、実際の様子を見る・触れる等、実践に即した体験ができるような機会となりました。

今回、訪問看護・訪問リハビリの方を中心に、院外からは26名、院内からは25名の計51名の方々に参加いただきました。参加いただいた事業所の方々からは、「呼吸器の管理方法など詳しく教えていただき、とてもわかりやすかったです。また、カニューレの挿入の流れもイメージしやすくて良かったです」「講師の先生方の話から知識を得て、実際に体験させていただいたことで大変勉強になりました」「普段聞けない基本的なことが聞けて大変参考になりました」というようなご感想もいただいております。

今後も、大分県東部医療圏域にある事業所の方々と連携強化を図り、地域のニーズに応えられるよう、患者さんへの支援体制の構築を目指してまいります。



<<<<<2024年秋～冬の行事紹介>>>>>

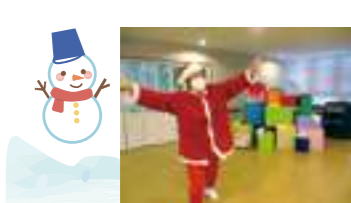
体験型アミューズメント‘Feel’

対象：一般病床含む全病棟

保育士 中田由美

今年度2回目は、11月は秋、12月は冬をイメージしました。秋は、温もりを感じられる灯籠のオブジェ

や表情豊かな地蔵、大きな銀杏の木などが登場し、紅葉の雰囲気を感じられる空間になりました。12月に入ると、紅葉が枯れ葉へと変わり、地蔵は笠を被り、会場内の所々に雪(綿)が積もるなど冬を感じられる演出を施しました。1回目と同様、利用者さんや職員より好評を頂き、病院にいらながらも季節の移り変わりを体験できる空間を提供することができました。



クリスマス会

対象：東1～5病棟（一般病床除く）

保育士 松石菜々 三浦理沙
ケミカルライトダンス クリスマスヒュッテ

東1・2・5（主に神経・筋疾患）病棟ではクリスマス衣装を着た医師・病棟職員、療育指導室職員が“きよしこの夜”のトーンチャイム演奏を行い、会の始まりを伝え、クリスマスの雰囲気を感じて頂きました。その後は各お部屋でプレゼントをお渡し、“もろびとこぞりて”の歌唱を行いました。プレゼントを受け取られると「ありがとう」と言われたり、微笑んでくださったりと利用者さんの喜ばれる姿がとても印象的でした。歌唱後は仮装スタッフと記念写真を撮影し、会話が弾み賑やかな時間となりました。



東3・4病棟クリスマス会

東3・4（主に重症心身障害）病棟では、未就学児以外の方に昨年好評だった“X'masマーケット”に参加していただきました。イルミネーションと「べっぴんクリスマスファンタジア」の映像を鑑賞後、職員が“ケミ

カルライトダンス”を披露しました。ダンスが始まると大声で笑ったり、驚いたりする様子が見られました。その後、引換券とヒュッテに飾られたプレゼントを交換し、最後にハンドベル演奏を行いました。未就学児さんの会では、絵本“100人のサンタクロース”の世界観で行いました。事前にサンタ宛の手紙を書き、“返事が来た！サンタの町に招待された！”という設定でスタート。絵本のお話にちなんだサンタ探しゲームでは、「見つけた！」とお友達や職員と喜びながら楽しみました。ジングルベルを歌っていると、サンタさんが登場！ご家族からのプレゼントをもらい、とても嬉しい会となりました。



東1・2・5病棟クリスマス会



年末年始の行事食紹介



栄養管理室・栄養管理室長 佐藤恭子

年末年始の行事食をご紹介します。

行事食とは、日頃のメニューと違い普段は出来ない手の込んだ料理や季節や行事に合わせた食事のことです。今年度も、クリスマスから大晦日、三が日の正月料理、七草、鏡開きと行事食の提供が続きました。

お正月を自宅で過ごせない方々にもお正月気分や季節を感じて新年を迎えて頂きたいなあと願いながら、準備から調理、提供まで細心の注意を払い栄養管理室スタッフ一丸となって提供致しました。メッセージカードは、入所者の方の御協力を頂き写真や絵手紙の作品を使用させて頂くこともあります。今後も、患者さんが食事を楽しみにして頂けるよう、栄養管理室一同努力して参ります。

行事食の写真は、当院のInstagramにも毎月投稿しています。Instagramをされている方はフォロー、いいね！をお願い致します。

今年もよろしくお願い致します。



12月16日

お誕生日食



1月1日

元日



12月25日

クリスマス



1月10日

鏡開き



12月31日

大晦日



第46回九州地区重症心身障害研究会を開催して

第 46 回九州地区重症心身障害研究会会長
名誉院長 後藤 一也

「第46回九州地区重症心身障害研究会」が、県内の重症心身障害施設4施設(当院、すぎな園、別府発達医療センター、恵みの聖母の家)共催で、令和7年1月18日(土)にビーコンプラザで開催されました。

重症心身障害施設の大きな課題となっている高齢化を踏まえて、今回の研究会テーマを「重症心身障害者の加齢へ対応」としました。テーマに合わせて、特別講演として、浅野一恵先生(つばさ静岡)には「重症心身障害児者の食事支援～豊かな生活を最期まで支えるために～」を、會田千重先生(国立病院機構肥前精神医療センター)には「行動障害を伴う知的・発達障害者の加齢とその対応」を講演していただきました。お二方とも、これまで一貫して取り組んで来られた分野のお話でした。内容はもちろんのこと、重症心身障害児・者と関わりの中で実践されてきた取り組みであることに感銘を受けました。研究発表においても、看護、日中活動、福祉サービス、NST、リハビリテーション、骨折、がんや看取りなど、それぞれのセッションで、加齢に伴う内容を中心に、素晴らしい発表と熱心な質疑応答が行われました。事前に座長の先生方に、セッションのまとめとして、加齢に関わる取り組みや課題をお話していただきたいとお願いしておりましたが、研究発表に沿った、簡潔ながらも的確なコメントをしていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。限られた時間の中でしたが、参加者にとっ

て良き情報共有や学びの機会となったのではないかと安堵しています。

あわせて37題の研究発表のうち、当院からの発表は11題にのほりました。その中から下記の4人が優秀発表演題賞を受賞しました。おめでとうございます。発表にあたってご協力いただいた方々にも謝意を申し上げます。

- ・「当院における骨折予防を目的とした取り組み」
副理学療法士長 西崎 武文
- ・「終末期にある重症心身障害者に対する苦痛緩和へのアプローチ ～意思疎通困難な患者が本人らしく過ごせるための多職種連携～」
副看護師長 進司 絵美
- ・「重症心身障害児(者)食の見直し ～高齢化に伴う誤嚥、低栄養予防のために～」
栄養管理室長 佐藤 恭子
- ・「医療と障害福祉の連携推進を目指した「福祉サービス報告会」の成果と課題」
主任心理療法士 橋本 裕貴



研究会は九州各県の持ち回りで開催されていますが、新型コロナウイルス感染症による中断もあり、11年ぶりの大分での開催となりました。第42回は中止、第43、44回はオンラインで開催され、昨年の福岡市での第45回大会が久しぶりの集合開催となりました。比較的参加者の多い福岡県での開催にもかかわらず、コロナ前に比べると参加者が減少したため、今回の研究会では、まず参加者、研究発表数の確保が大きな課題でした。また、これまで研究会は3月に開催されてきましたが、異動時期に重なるため、今回初めて1月開催としましたが、寒波やインフルエンザなどの懸念もあり、県内の相談支援事業所等にもご案内を出しました。当日は天候にも恵まれ、313名の参加があり、無事に研究会を終了することができました。研究会開催にあたり、当日スタッフとして、運営に当たられた職員はじめご協力いただいた職員の皆様に深く感謝申

上げます。そして、令和6年4月に準備委員会を立ちあげましたが、準備委員として、企画・運営の検討、準備に携わっていただいた末延院長はじめ、下記の委員の皆様へ深謝申し上げます。とりわけ、研究会全般の準備や渉外業務にあたられた猿渡療育指導室長はじめ療育指導室の皆さんに敬意と感謝を申し上げます。

閉会後の集合写真では、当院に加えて共催施設の方々にも入っていただいたこと、「研究会はやはり意義がある」と参加者の声を聞いたことが印象に残っています。

本研究会は、もともと旧療養所系施設の研究発表会として立ち上がりました。入所者の重症度や業務内容も大きく異なり、参加者確保も厳しくなっている状況ですが、今回、開催準備や運営、発表などを通して、研鑽、学びの場であるとともに、職員が協働することの意義を再認識できたことを申し添えます。

- 準備委員 末延院長 今井小児科部長 猿渡療育指導室長 岩本副看護部長
藤原師長 卜部師長 梶原理学療法士長 菊池管理課長 満名経営企画係長



X線骨密度測定装置の更新

放射線科 診療放射線技師長 鴛海勝治

令和6年12月、西別府病院のX線骨密度測定装置が更新されました。この装置は、高精度で検査効率が向上しており、被検者の拘束時間や負担が少なく、スムーズに検査を実施できます。また、解析ソフトが充実しており、詳細なデータ解析が可能です。

原発性骨粗鬆症ガイドライン2012年改訂版に基づき、日本人男女の原発性骨粗鬆症診断基準が改定され、新



全身X線骨密度測定装置：PRODIGY Fuga (GE社製)

しい基準値が腰椎と大腿骨に搭載されているため、最新の基準に基づいた診断が行えます。

基本的な腰椎正面、大腿骨、前腕骨などの主な骨粗鬆症の診断用アプリケーションに加え、西別府病院の臨床ニーズに対応するソフトウェア(大腿骨強度解析、膝関節専用、手部、脊椎椎体計測、小児専用など)も導入されています。また、全身測定が可能で、体組成の計測も行えます。

体組成については、従来の全身各部位の骨密度、脂肪量、非脂肪量、骨量の計測機能に加え、腹部と臀部の関心量領域が追加され、肥満症患者のモニタリングに効果的です。さらに、注目されているサルコペニアの診断にも使用される骨格筋量指数を、四肢の非脂肪量と患者の身長から自動で計算し、結果を報告できます。

小児の骨密度測定では、腰椎や大腿骨部の骨の形状が大人と異なるため、小児アプリケーションは、体格が変化しても正確に計測でき、継続的なフォローアップが可能です。

西別府病院のX線骨密度測定装置は、簡便で非常に低被ばくで計測が行え、様々な臨床ニーズに対応した情報提供が可能です。

グッドプレゼンテーション



東3病棟 看護師長 藤原ゆかり

令和6年度第47回大分県看護研究学会において、地域医療連携係長である村山看護師長がグッドプレゼンテーション賞を受賞しました。重症心身障害者の自宅退院を可能にした取り組みについて、示説発表に多くの方が訪れてくれました。医療的ケア児や重症心身障害児(者)に対して、今後も地域とのつながりを大切にしながら取り組んでいきたいと思ひます。



私の趣味

家族旅行

事務部 管理課長 菊池 仁



最近の私の趣味とって思いつくのは、いつもフレッシュ休暇を利用して行く「夢の国」への家族旅行です。

旅行前には、我が家の中学生と小学生になる子供たちが専門誌を読み漁り、乗りたいたいアトラクションや

見たいパレード、食べたいものなどをリストアップし、その日の行程を、あじやないこじやないと言ひながら決めるのが恒例行事となっています。

家計的に毎回子供たちには「今回で最後だから！」と言ひていますが、なぜか気付けば毎年のように訪れていまひます。子供たちにせがまれイヤイヤ行っている気でしたが、本当は自分も夢の国で癒されたくて、子供たちがせがんで来るのを待っているのかもしれない。そして子供たちが一緒に行ってくれるのもあと何年かなと思ひながら家族旅行を楽しんでいまひます。

またせがんで来てくれるのを期待しつつ、今年も夢の国へ無事に行けるよう、仕事を頑張りたいと思ひます。

あつまれ どうぶつの森

東3病棟 看護師 水之江風花



私の趣味は、休みの日に Nintendo Switch で、あつまれどうぶつの森をすることです。小学校の頃に3DSでどうぶつの森をしていたのですが、それ以降はあまりゲームをやらな

くなっていまひました。しかし、入職してから再びしたいと思ひ購入しまひました。

あつ森の1番の魅力は、自分のペースで好きなように島での生活を楽しめることです。素材を集めてDIYをしたり、魚釣りや虫取りをしたりしまひます。また、日替わりで好きなコーデに変えたり、好みの家具を集めて自由に部屋を飾り付けすることもできます。地道な作業が多いのですが、捕まえた魚や虫で図鑑がいっぱひになった時や、部屋に理想の家具を集められた時は達成感があります。また、島の住民は可愛く個性豊かで、癒やしを与えてくれることも魅力の1つです。友達と通信して遊べたりもするので、やったことがない方は是非やってみてください!

日本酒と酒蔵を求めて

リハビリテーション科 理学療法士

浅井 一輝



私が当院へ赴任した5年前はコロナ禍がまさに始まった瞬間でありました。それまでの26年間を鹿児島で育った私に

とって大分の地は遠く、温泉と白い猫のキャラクター以外に思いつくものはありませんでした。いざ知見をば開かん、と意気揚々に別府へ着いたものの、しばらくはコロナ自粛のために大手を振って出歩か気分になれなかつたことを思ひ出しまひます。

さて、私が鹿児島にいた頃は毎日のように芋焼酎を嗜んでいまひました。大分に来てまずは麦焼酎を試し、これもまた美味ひです。さすがに私を虜にしたお酒がありました。日本酒です。というも鹿児島は暑いうえにシラス台地となつており日本酒を造るには非常に適さない環境です。私が飲むのは年に1度ぐらひのみ。それも遠方

の知らない土地で造られたお酒でした。ところが大分に来て驚きました。同じ九州なのに米よし水よし、それらで醸したお酒よし。三方よしの酒造会社は県内に点在。日本酒をほとんど嗜んでいなかった私にとってまさに僥倖でした。しかもお酒さえ買えば自宅好きなだけ楽しめます。コロナ禍にはびつたりでした。行動自粛が緩和されてからは酒造場へ実際に赴き、直売限定の商品を見つけてはそれもまた楽しむ。通帳と相談しながら存分に味わつてきていまひます。

そんな私が特に心躍るのが年末から春先にかけての時期。実は秋頃に収穫した新米を仕込み、できあがつた新酒が出回り始める時期なのです。新酒の解禁を祝つて蔵開きの祭りを催すところもあります。そんなわけで先日、九重町にある県下有数の蔵開きを堪能してきていまひました。この時期は特に寒く、過去には積雪で行けなかつたために近所の酒屋に依頼して蔵開き限定酒をどうにか仕入れてもらった年もありました。本当であれば新酒と併せて味わいたひのが秋に出回るひやおろし。新酒を夏の間寝かせて熟成させたものひです。そこまで手を伸ばすと家計が火の車になるので今は年に1度、新酒のみを楽しむこととしていまひます。さて今晚はどんなご飯を作つてゆつくり味わおうかな。



仏舎利塔から臨む鶴見岳 (撮影者：特殊撮影主任 橋本 達也)

	 独立行政法人 国立病院機構		
西別府病院		ホームページ	Instagram



患者さまへのサービスをより細やかに、地域に貢献する病院をめざし、より信頼される医療を行うために、西別府病院は病院ボランティアを募集しています。

詳しくは当院ホームページ ([http\(s\)://nishibeppu.hosp.go.jp](http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp)) をご参照願います。